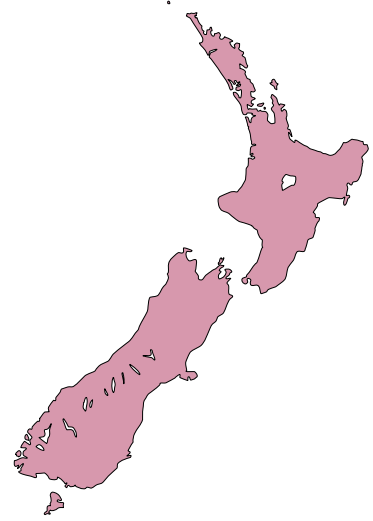


言葉の壁を超えて 国際人への第一歩

昨年引き続き行われたニュージーランドへの青少年派遣事業。今年は、8月3日から10日まで、町内の中学生10人がオークランド市を訪れ、一般家庭へのホームステイ、学校の授業への参加、農場体験などを通して、現地の文化や生活習慣を肌で感じ、言葉の壁を超えて交流を深めました。

参加者たちの感想を紹介します。

(敬称略)



研修レポート

ワンツリーヒルにて



シープワールド(牧場体験)

私は、外国人に会うと、なんだか少しさけていました。でもホームステイをして、人種が違っていても、言葉が違っていても、分かち合える同じ人間なんだということが、改めて分かりました。そして、自信が持てたような気がします。

この研修で、ニュージーランドの自然の方針や考え方をなどを知ることができて、とてもよい体験となりました。



野口文菜
(下新町)
笠中二年生

僕はPike家にお世話になりました。学校へは楽しく会話をしながら行きました。学校から帰ってからは、ボートクラブや空手教室などに連れていってもらいました。そこでは、いろいろな人たちとふれあうことができました。言葉が通じなかったり、うまく聞きとることができなかつたりしました。

この家族との生活は、一生で大切な思い出になりました。



中西克志
(田代)
笠中一年生

僕は、この研修を通して学んだことがあります。それは「コミュニケーション」についてです。

ほとんど言葉も分からなく、本当にどうしようかと、ずっと考えていたけれど、一生懸命に自分の考えを相手に伝えようとしてジェスチャーなどを使うと相手に自分の気持ちも伝えられ、相手の考えも分かりました。つまり大切なのは、言葉より気持ちだと思えます。



福田健吾
(田代)
笠中一年生

僕は、昨年の家族でのホームステイに続き、二度目だったので、少しは自信があったのに、いくつかの質問に対して、あまりうまく説明ができませんでした。その度にホストファミリーは僕を気づかせてくれたのが分かり、うれしいんだけど、申し訳ないという気持ちで悔しかったです。でも、一人でのホームステイは得るものも多く、貴重な体験ができて良かったです。



大橋賢人
(北及)
笠中一年生

初めての外国。始めは不安でしたが、行って来て本当によかったと思います。

ホームステイ、学校を通じて、外国の色々なことを学習できてよかったです。僕は英語が苦手だったけど、とても楽しかった。言葉は通じなくても体で表現したりできたので、現地にいる時間がとても短いと感じた。最後にニュージーランドは最高でした。



飯田恭平
(西宮町)
笠中二年生